



キャンプ用テントの SG 基準

SG Standard for Camping Tent

通商産業大臣承認 5 産第 2785 号・平成 6 年 1 月 27 日
一般財団法人製品安全協会改正 2021 年 6 月 1 日

キャンプ用テント専門部会 委員名簿

(委員は 50 音順)

	氏名	所属
(部会長)	佐久田 博司	青山学院大学
(委員)	坏 牧夫	株式会社メガスポーツ
	衛藤 謙一	キャンパルジャパン株式会社
	澁谷 聡介	テュフズードジャパン株式会社
	高橋 邦彦	一般財団法人日本繊維製品品質技術センター
	田辺 恵子	主婦連合会
	時枝 健一	ゼットクリエイト株式会社
	橋本 玄平	株式会社ゴールドウィン
	藤浪 悟	株式会社エバニュー
	三浦 佳子	消費生活コンサルタント
	宮村 康夫	一般社団法人日本スポーツ用品工業協会
(関係者)	経済産業省 産業保安グループ	製品安全課
	経済産業省 製造産業局	生活製品課
(事務局)	一般財団法人製品安全協会	

キャンプ用テントのSG基準

SG Standard for Camping Tent

1. 基準の目的

この基準は、キャンプ用テントの安全性品質及び使用者が誤った使用をしないための必要事項を定め、一般消費者の生命または身体に対する危害の発生の防止を図ることを目的とする。

2. 適用範囲

この基準は、キャンプ用テント（以下「<テント>」という。）の安全性、品質及び使用に関する要求事項を示すものである。なお、この基準では、登山用、トイレ用、集会用テント、キャラバンオーニング（Caravan awning）（ISO 8937）等の特殊な使用目的のものは除く（ISO 5912 1）。

3. 形式分類

テントの形式は、次のとおりとする

R形（Type R：residential tent）：就寝を含む居住を目的としたテントであり、積雪には耐えないが、春から秋までなどの長期間の設営に適したテント。

T形（Type T：touring tent）：就寝を含む居住を目的としたテントであり、繰り返し設営・撤収する使用に適したテント。

S形（Type S：sleeping tent）：主として就寝を目的とするテントをいう。以下の2クラスに分類される。

標準質量テント（Class st：Standard weight tents）：2.5kgを超える質量のテント。

軽量テント（Class 1：Light weight tents）：2.5kg以下の質量のテント。

4. 用語の定義（ISO 5912 3）

・基礎区域（Base area）：アウトテントのウォールが地面と触れる位置で囲まれる総区域をいう。ただし、泥よけ部は含まれない。

・使用可能区域（Usable area）

居住区域（Living area）：基礎平面内の、就寝を含まない居住のために設計された区域をいう（T形及びR形）。

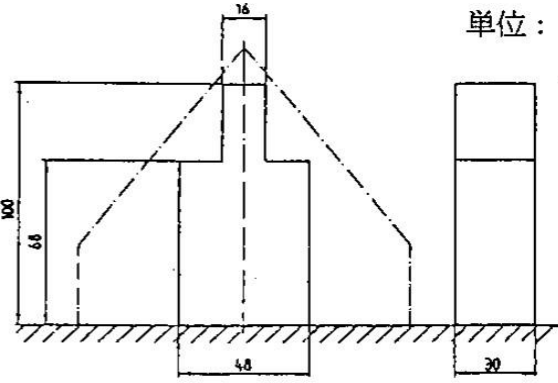
就寝区域（Sleeping area）：基礎平面内の就寝のために設計された区域をいう。

・収容人員（Capacity）：テント設計上の収容できる大人の人数をいう。

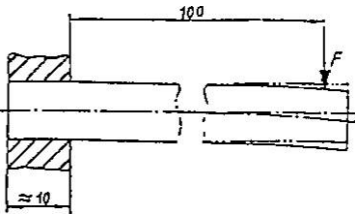
5. 安全性品質

テントの安全性品質は、次のとおりとする。

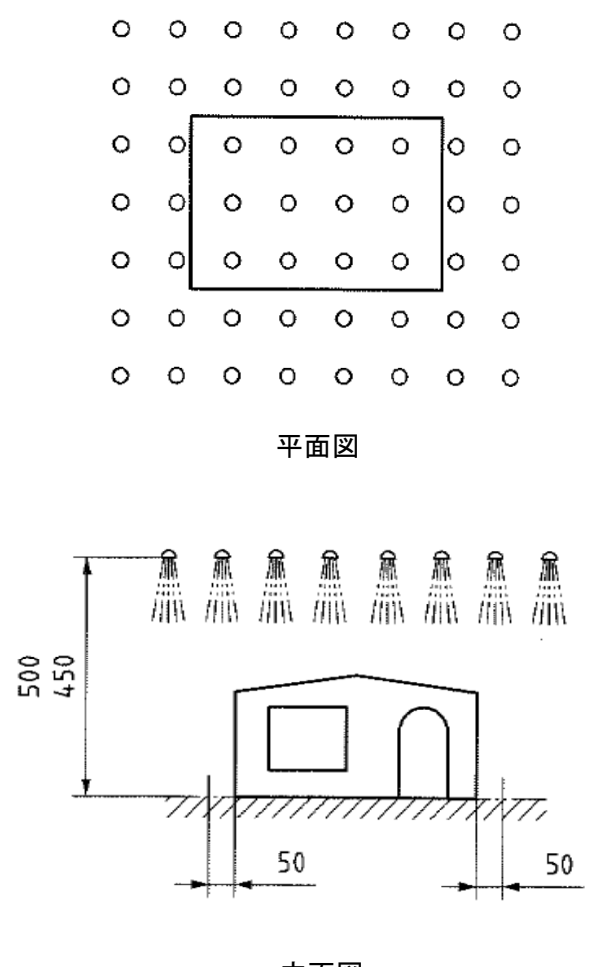
項目	基準	基準確認方法																				
1. 構造、外観および寸法	<p>1. テントの構造、外観及び寸法は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 収容人員一人当たりの就寝部の寸法は、表 1 に示される寸法以上であること (ISO 5912 4.2.1)。</p> <table border="1" data-bbox="442 790 1442 1117"> <thead> <tr> <th colspan="4" data-bbox="442 790 1442 840">表 1. 一人当たりの就寝部の寸法 (単位 : cm)</th> </tr> <tr> <th data-bbox="442 840 641 907"></th> <th data-bbox="641 840 896 907">R 形</th> <th data-bbox="896 840 1152 907">T 形</th> <th data-bbox="1152 840 1442 907">S 形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="442 907 641 974">長さ</td> <td data-bbox="641 907 896 974">205</td> <td data-bbox="896 907 1152 974">200</td> <td data-bbox="1152 907 1442 974">200</td> </tr> <tr> <td data-bbox="442 974 641 1041">幅</td> <td data-bbox="641 974 896 1041">70</td> <td data-bbox="896 974 1152 1041">65</td> <td data-bbox="1152 974 1442 1041">60</td> </tr> <tr> <td data-bbox="442 1041 641 1117">測定高さ</td> <td colspan="3" data-bbox="641 1041 1442 1117">5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 就寝区域の高さは、以下のとおりであること (ISO 5912.4.2.2)</p> <p>(a) R 形にあっては、就寝区域の 30% の高さが 170cm 以上であること。</p> <p>(b) S 形にあっては、1 ~2 人用はテント内に最低一人が、3 ~4 人用のものでは最低 2 人が座れる大きさであること。</p>	表 1. 一人当たりの就寝部の寸法 (単位 : cm)					R 形	T 形	S 形	長さ	205	200	200	幅	70	65	60	測定高さ	5			<p>1. (1)組立説明に従い、テントを水平な床面上で組み立て (以下、特に指定がなければ同様とする。)、表 1 に示される長方形寸法が確保されていることをスケール等により測定して確認すること。</p> <p>(2) (a)スケール等により測定して確認すること (ISO 5912 7)。</p> <p>(2) (b)図 1 に示す試験体をテント内部に必要な数だけ設置することにより、アウトテントの屋根部にインナテントが接触しないことを確認すること (ISO 5912 7.1)。</p>
表 1. 一人当たりの就寝部の寸法 (単位 : cm)																						
	R 形	T 形	S 形																			
長さ	205	200	200																			
幅	70	65	60																			
測定高さ	5																					

項目	基準	基準確認方法
	<p>(3) 就寝区域は、側端部の高さが 10 cm以上のます形のグラウンドシートにより構成されること (ISO 5912 4.2.3.4.7.1)。</p> <p>(4) グラウンドシートは、各コーナに裾止め部を有すること。ただし、インナテントに幅 200 cm以上の出入口を有する場合は、直接接地面との固定が可能な方法等の付加的な措置を講じること (ISO 5912 4.7.2)</p> <p>(5) R 形にあっては、泥よけの幅が 25 cm以上であり、コーナ部や縫い目部は重ね合わされていること (ISO 5912 4.8)。</p>	<p style="text-align: right;">単位：cm</p>  <p>(3) スケール等により測定して確認すること (ISO 5912 7)。</p> <p>(4) 目視などにより確認すること (ISO 5912 7.2)。</p> <p>(5) 目視、スケール等による測定などにより確認すること (ISO 5912 7)</p>

項目	基準	基準確認方法
	<p>(6) R 形にあつては、泥よけ部の地面への固定は 65 cm 以下の間隔で可能であること。なお、幅 80 cm 以下の出入口部はこの限りでない (ISO 5912 4.8, 5.2.4)</p> <p>(7) T 形又は R 形にあつては、各フレームに組立時に誤った組合せが生じない措置が講じられ、確実に連結されること (ISO 5912 4.12.2)。</p> <p>(8) 換気構造を有すること (ISO 5912 4.13)。</p> <p>(9) T 形又は R 形にあつては、最低限屋根位置の各コーナに張り網を取り付けられる構造であること。なお、R 形は、窓の高さにも 60 cm 間隔 (出入口部は除く。) で張り網を取り付けられる構造であること (ISO 5912-5.2.1)</p> <p>(10) スライドファスナは、最低一つの出入口には下から開けることができるものを使用し、かつ周囲とは異なった色彩を用いるなどしてス</p>	<p>(6) 裾止め部等の固定部がはとめ等で補強されていることを目視等により確認し、その間隔をスケール等により測定して確認すること (ISO 5912 7.4.8)。</p> <p>(7) 目視等により確認すること。</p> <p>(8) 目視等により確認すること (ISO 5912 4.13)。</p> <p>(9) 目視等により確認すること (ISO 5912 7)。</p> <p>(10) 目視等により確認すること (ISO 5912 7)。</p>

項目	基準	基準確認方法						
<p>2. 強度及び性能</p>	<p>ライダー部が目につきやすい措置を講じること (ISO 5912 6.2.2.)。</p> <p>(11) テントに適した装備品を有すること。</p> <p>2. テントの強度及び性能は、以下のとおりであること。</p> <p>(1) T形及びR形のフレームは、曲げ試験を行ったとき、座屈、著しい変形等がないこと (ISO 5912 5.1)。</p> <p>(2) 裾止め部の引張強度は、R形で 500N 以上、T形及びS形で 350N 以上であること。(ISO 5912 5.2.2, 5.2.3)。</p> <p>(3) 雨水の侵入に対する抵抗試験を行ったとき、アウトテントの屋根部がインナテントに接触せず、テント内に漏水のないこ</p>	<p>(11) 目視などにより確認すること。</p> <p>2. (1) 図2に示すように、表4の試験荷重を 10 分間負荷し、目視等により確認すること (ISO 5912 7.12.1)。</p> <p style="text-align: right;">単位 : cm</p>  <p>図2. フレーム曲げ試験</p> <p>表4. フレームの曲げ試験荷重 : F</p> <table border="1" data-bbox="933 1283 1318 1431"> <thead> <tr> <th></th> <th>試験荷重 (N)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 形</td> <td>100N</td> </tr> <tr> <td>T 形</td> <td>81N</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) テント本体から、裾止め部周囲の生地部が幅 5 cm になるよう試料を切り出し、JIS L 1096 (一般織物試験方法) に規定される引張試験により確認すること。なお、引張速度は 10 cm/min とする (ISO 5912 7.5.1)。</p> <p>(3) 実施において、水圧は 300 kPa~400 kPa とし、水量は試験区域全体で 60l/h/m² 以上であることとする。方法は下の①や②の通りである。散水時間は合計 1 時間とする。</p>		試験荷重 (N)	R 形	100N	T 形	81N
	試験荷重 (N)							
R 形	100N							
T 形	81N							

項目	基準	基準確認方法
	と (ISO 5912 4.15)。	<p>① a) 2つのスプリンクラー</p> <ul style="list-style-type: none"> — 左右へ最大 90° まで旋回可能 — ノズルの直径 : 0.11 cm — 降雨角度 : 45° <p>b) 散水可能範囲 : 10 m²以上</p> <p>組立説明書どおりにテントを組み立て、閉めきった状態にする。図3に示されるように、まずA側のスプリンクラーがテントの出入口から 20 cm 離れたところまで散水できるようにテントを設置する。このとき、出入口が十分散水されない場合は、更にA側のスプリンクラーに近づける。次にテントを 90° 回転させる。</p> <div data-bbox="893 1008 1484 1456" data-label="Diagram"> </div> <p>図3 降雨試験 ①</p>

項目	基準	基準確認方法
	<p>(4) スライドファスナは、JISS 1015 (スライドファスナ) に規定されるもの、又はこれと同等以上の品質を有するものであること (ISO 5912 4.10.2, 4.10.3, 7.3.1, 7.3.2)。</p> <p>3. テントの生地部の強度及び性能は、以下のとおりであること。</p>	<p>② 天井に等間隔に設置されたスプリンクラー</p>  <p>平面図</p> <p>立面図</p> <p>図4 降雨試験 ②</p> <p>(4) 規格値に適合していることを確認すること。 なお、確認は材料明細書又は試験成績書によってもよい。</p> <p>3. (1) JIS L1096 (一般織物試験方法) に規定される引張強さA法 (ストリップ法) により確認すること。なお、試料の大きさは5cm</p>

項目	基準	基準確認方法
	(1) 生地 of 引張り強さは、表 5 に示す値以上であること (ISO 5912 1, 4, ISO 10966 4)。	× 20 cm とする。

表 5. 生地 of 引張り強さ

		R 形	T 形	S 形	
				標準質量 テント	軽量テント
屋根部	皮膜処理有	1000N	850N	500N	400N
	皮膜処理無	700N	700N		
ウォール又は アウトテント	皮膜処理有	850N	800N		
	皮膜処理無	600N	500N		
インナテント		300N			

(2) 生地 of 引裂強さは、表 6 に示す値以上であること (ISO 5912 1, 4, ISO 10966 4)。	(2) JIS L1096 (一般織物試験方法) に規定される引裂強さ C 法 (トラペゾイド法) により確認すること。ただし、試料 of 大きさは 5 cm × 23 cm とし、掴み間隔 10 ± 0.1 cm、引張速度 10 cm /min とする。
---	--

表 6. 生地 of 引裂強さ

		R 形	T 形	S 形	
				標準質量 テント	軽量テ ント
屋根部、ウ ォール又は アウトテン ト	皮膜処理有	45N	40N	30N	30N
	皮膜処理無	40N	40N	30N	30N

項目	基準	基準確認方法
	(3) 生地 の耐水圧は、表7に示す値以上であること (ISO 10966)。	(3) ISO811 (低水圧法)に規定される方法により確認すること。

表7. 生地の耐水性

	R形	T形	S形	
			標準質量テント	軽量テント
屋根部、ウォール 又はアウトテントなど外表面側の生地	20kPa (2,039 mmH2O)	20kPa (2,039 mmH2O)	20kPa (2,039 mmH2O)	15kPa (1,530 mmH2O)
グランドシート	30kPa (3,059 mmH2O)	30kPa (3,059 mmH2O)	30kPa (3,059 mmH2O)	30kPa (3,059 mmH2O)

4. 材質	<p>4) テント用生地の接合・縫合部の引張強度は、表5に示される値の1/2以上であること。なお、異なった部位どうしの接合・縫合部は引張強さが低い方の値とする。</p> <p>4. 耐食性材料以外の金属製材料は、防せい処理が施されていること。</p>	<p>(4) JIS L1093 (繊維製品の縫い目強さ試験方法)に規定されるグラブ法により確認すること。</p> <p>4. 目視等により確認すること。</p>
-------	---	--

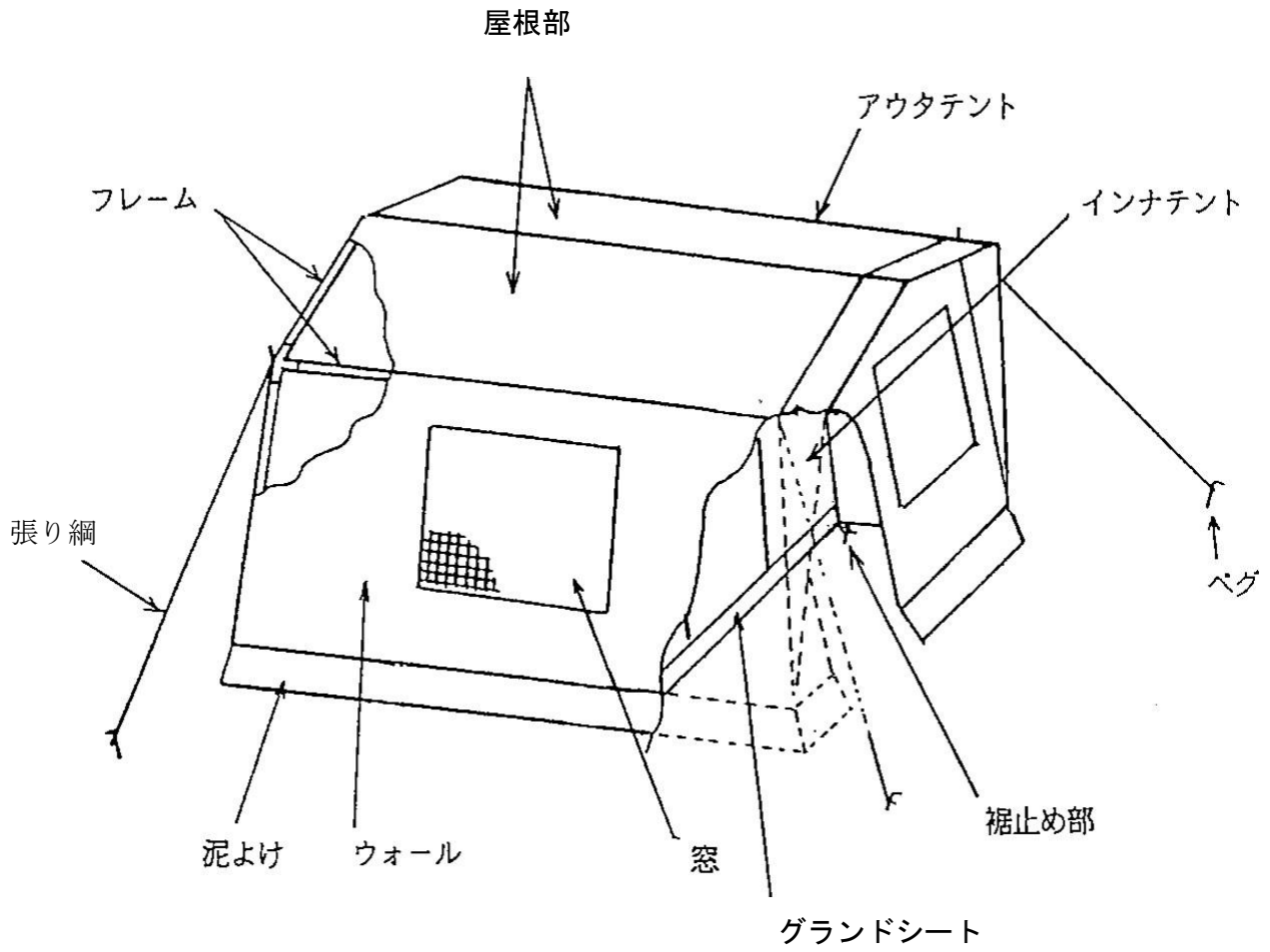
6. 表示及び取扱説明書

テントの表示及び取扱説明書は、以下のとおりであること。

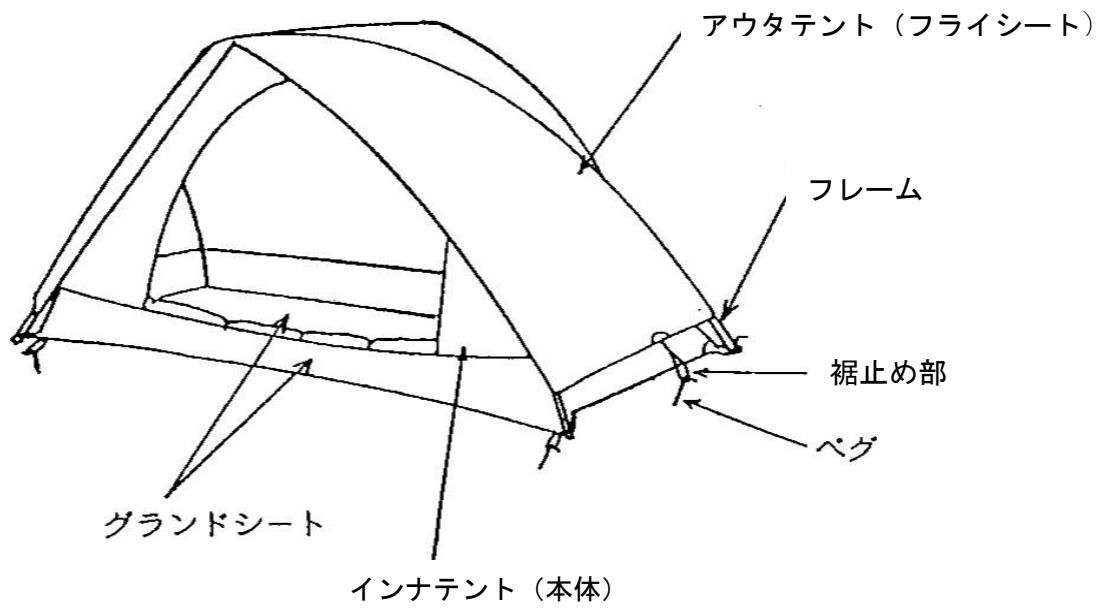
項 目	基 準	基 準 確 認 方 法
1. 表示	<p>1. テントには、以下に示す趣旨の表示を容易に消えない方法で表示すること。</p> <p>(4) については、テント内の見やすく読みやすい位置に表示し、全体の大きさが7 cm×15 cm、表題文字の高さは他の文字の2倍以上であること。また、表題文字の色は赤であり、他の文字は白地に黒であること (ISO 5912 5.4)。</p> <p>(1) 製造、販売又は輸入事業者の名称、又はその略号 (ISO 5912 5.4)</p> <p>(2) 製造又は輸入年月、若しくはその略号</p> <p>(3) 基本仕様(付属品参照) (ISO 5912 9.2)</p> <p>(4) 火気取扱いに関する注意事項 (ISO 5912 5.4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプの安全のために以下に従ってください。 ・テントのウォール、屋根及びカーテンの近くで加熱調理、照明の点灯、暖房器具の使用は避けること。 ・各加熱・照明器具は、常時取扱説明書どおりに使用すること。 ・照明の近くで子供を遊ばせないこと。 ・設営場所の消火設備を確かめておくこと。 	1. 目視、触感等により確認すること。
2. 取扱説明書	<p>2. テントには、以下の項目を網羅した取扱説明書を添付すること。</p> <p>なお、この取扱説明書は、初めてテントを購入する人にも理解できるように記載し、イラストや図面を併用すること (ISO 5912</p>	2. 目視により確認すること。なお、必要に応じて説明書どおりにテントを取り扱い、確認すること。

項 目	基 準	基 準 確 認 方 法
	<p>8)。</p> <p>(1) 設営の練習を行ってから、使用すること。</p> <p>(2) 設営場所の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> －地面のタイプ －風向き －低気圧を避けること。 <p>(3) 設営/撤収</p> <ul style="list-style-type: none"> －フレーム類の表示の解説 －設営及び撤収の手順 －張り網の張り方 <p>(4) 収納</p> <ul style="list-style-type: none"> －折り畳み形状 －濡れたテントの収納 －フレーム及び本体の分割 <p>(5) 保全/修理</p> <ul style="list-style-type: none"> －清掃、わずかな移動を伴う場合 <p>(6) 個々のケースでの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> －雪 －砂地 －暴風 －他の特殊な環境 <p>(7) 製造業者、輸入事業者又は販売業者の名称、住所及び電話番号</p>	

参考付図



(1) T形 例図



(2) S形 例図

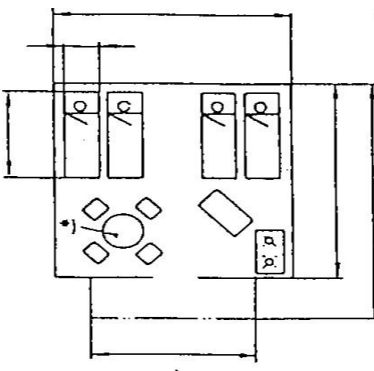

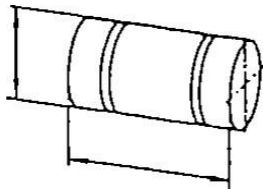
付属書 (ISO 5912 Annex B)

テントの表示

1. T形及びR形のテント

詳細なイラストを用いるなどして、形状及び材料の仕様を明示する。

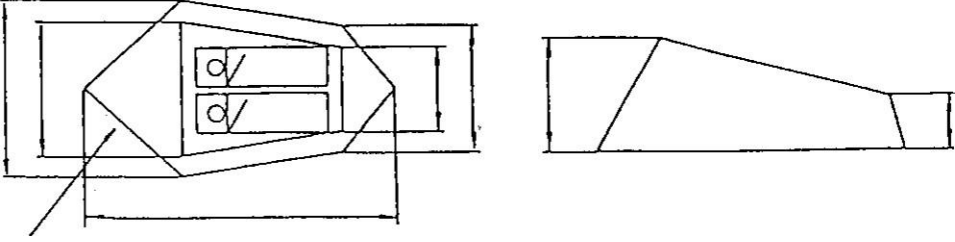
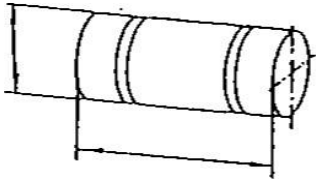
表 1. T形及びR形のテントの仕様表示例

CPSA 0100 に基づく T形 (又は R形) テント			
<p>アウト/インナテントの主要寸法、テーブル等を配置したリビングエリア、就寝位置</p>	 <p style="text-align: center;">↑ 出入口</p>		
<p>収納寸法 収納質量</p>		<p>・・・kg</p>	<p>収納は全部で__個</p>
<p>材料** アウトテント インナテント</p>	<p>皮膜処理のあるナイロン 綿 100 %</p>		
<p>製造/輸入業者</p>			
<p>* : テーブル (例)</p>		<p>** : CPSA 0100 に基づく生地性能である。</p>	

2. S形のテント

詳細なイラストを用いるなどして、形状及び材料の仕様を明示する。

表2. S形のテントの仕様表示例

CPSA 0100 に基づく S 形テント（標準質量テント及び軽量テント）			
<p>アウト／イン ナテントの主 要寸法、就寝 位置</p>			
<p>収納寸法 収納質量</p>		<p>・・・kg</p>	<p>収納は全部で__個</p>
<p>材料** アウトテント インナテント</p>	<p>皮膜処理のあるナイロン 綿 100 %</p>		
<p>製造／輸入業者</p>			

*: CPSA 0100 に基づく生地性能である。

3. テントの質量表示

下表例は、S形の標準質量テントで2人用の場合であり、質量が3.4kgとなることを示す。質量の制限もこの表を用いて同時に示すことができる。

